

文化財NEWS

福島県教育庁南会津教育事務所 総務社会教育課

1 窪田遺跡 県指定史跡

窪田遺跡は伊南川左岸の河岸段丘上に位置する縄文時代後期から弥生時代中期にかけての遺跡です。

只見町教育委員会による発掘調査(S60~61)で、縄文時代の竪穴住居跡4基、弥生時代の竪穴住居跡2基、再葬墓などが見つかりました。竪穴住居は直径4~5m、深さ50cm位に掘り下げ、屋根をふいて住んでいました。副葬品や土器も発見され、奥会津只見考古館で展示されています。(現在休館中)



【教科書に載っているのと同じ】



【住居内部は意外と広々】



令和4年オープン予定の「ただみ・モノとくらしのミュージアム」オープン前ですが、少しでも中を見せていただきました。「会津只見の生産用具と仕事着コレクション(国指定重要有形民俗文化財)」を中心に収められ、体験企画も充実したものになりそうです。

2 比良林のサラサドウダン

県指定天然記念物



サラサドウダンは、ツツジ科ドウダンツツジ属の落葉低木で、近畿地方から東と北海道に生育しています。

比良林(ひらばやし)公園内にあるこの大木は、根元から数本の太枝に分かれ、高さ3.7m、枝の張りは東西に約8.5m南北に10mもあります。根周りが4mもあり、立派な枝張りをもつものはたいへん珍しく貴重です。

只見町では、六月ごろに開花する、淡紅白色の釣鐘型の花を風鈴に見立てて「フウリンツツジ」とも呼ぶそうです。

現在の周辺環境は開発や整備により、数百年前とは大きく様変わりし、サラサドウダンは「あれっ?」と感じているのだそうです。“育ってきた環境”を守っていくことが大切なのですね。

3 旧長谷部家住宅(叶津番所) 県指定重要文化財[建造物]

旧長谷部家住宅は、江戸時代後期に建築された厩(うまや)中門造(ちゅうもんづくり)の上級農家建築の遺構としてたいへん貴重で、規模の大きな造りから当時の様子をうかがい知ることができます。住宅内の「柱」の幅は35cm、「鴨居」の高さは51cmとたいへん立派で、仕上げはかな掛けとなっています。

家主の長谷部家は、代々叶津村の名主を勤め、この村が「八十里越」と呼ばれる街道沿いで、会津藩と長岡藩との藩境にあったため1704年以降「叶津番所」として兼用され、長谷部家が番所の業務を行いました。会津の玄関口として、八十里越を行き交う人々を見守り続けてきたのですね。



【長谷部家裏側】(正面工事中のため)



【入口の土間はかつての厩】



【いろりが中心にすえられた上の間】



【上段の間は役人が滞在しました】



【管理人の三瓶さんに御説明をいただきました】



【養蚕の道具やかごなどの生活用品がズラリ!】



歴史ある建造物です。所有者の変遷や厳しい自然の中では当然傷みも出てきます。只見町教育委員会では補修の計画を立てて、維持にあたっています。
(生涯学習係：渡部賢史さん)



【2階の作業場】※奥の窓は冬の積雪時には出入口になります